

第2分科会 評価・改善

研究課題：学校の教育力の向上を図る学校経営の評価・改善

学校運営協議会における評価・改善の充実に向けて

～ 地域資源を生かした教育活動を通して ～

提案者 福山市立新市小学校長 本宮 政尚

1 はじめに

本校は、福山市新市町の新市中央中学校区にある4小学校の1校である。令和5年度、町内の2中学校が一つに再編されたことを機に、「ALL 新市」を合言葉とし、地域の特色を生かした体験的な活動やキャリア教育等を通して、将来の夢や目標を持つ児童生徒の育成を中学校区全体で推進してきている。

また、令和5年度より学校運営協議会制度を中学校区で導入し、従来の学校への支援的風土を生かしながら、学校と地域が一体的に学校経営に取り組み、学校課題の解決を通して、教育活動の充実と発展を目指しているところである。

しかし、学校運営協議会の内容が、これまでの外部評価委員会と大きく変化がないことから、各校長・運営委員が、協議会の在り方を模索している状況にあった。

本研究では、家庭・地域等と連携・協働する学校づくりのため、協議会における学校課題の共有化及び評価・改善の充実に向けた、この間の取組を提案する。

2 研究の概要

(1) 学校運営協議会の現状と実態

- ・ 学校評価自己評価表に基づく学校状況の説明、運営委員からの質疑応答など、従来の外部評価委員会の内容と変わらない状況であった。
- ・ 各校長や運営委員は、学校運営協議会の在り

方に課題を感じており、協議会を通じた教育活動の評価・改善の質の向上を模索していた。

- ・ 令和6年度、第1回協議会にて運営委員から「4小の児童が中学校に入学後、各校区のふるさと自慢をしてみてもどうか」という提案を受け、各校は、その実現化を目指すこととした。

(2) 中学校区の取組

① 提案の実現化

各校長は、提案の実現化が、学校運営協議会の転機になると考え、「運営委員の意見が、教育活動に反映している」と実感してもらえるよう、カリキュラムの再編成など、具体的に取組を進めることを協議・推進した。

② 学校運営協議会の内容の見直し

学校評価自己評価表の説明と質疑応答が中心となっていた内容を見直し、各校の「ふるさと自慢」の進捗状況の報告及びその評価・改善に係る意見交流に移行した。学校評価自己評価表は、事前配付し、当日、質疑応答のみとした。

③ 地域資源の整理

各小学校区の資源を、伝統・歴史・企業・人材等のカテゴリーで整理し、中学校区の資源バンクとして一覧表にまとめた。小学校区を超えた資源の活用を通して、体験的・探究的な学習における児童生徒の願いや思いの自己実現等につなげていくことを目指した。

(3) 本校の取組

① カリキュラムの再編成等

提言の内容を教職員と共有し、総合的な学習の時間を中心に、理論研修、単元の再構想、授業改善、行事の見直し等に取り組んだ。

② 「ふるさと自慢」の具体

ア 「備後絣 de アームカバー」

新市の名産である備後絣でアームカバーを作り、服の袖を汚しやすい低学年にプレゼントする。



イ 「けんか御輿 新市っ子 ver.」

毎年7月に新市で行われる祇園祭の「けんか御輿」の御輿を2基制作し、小学校の運動会でリレー対決を行う。



ウ 「新市知っとる検定」

新市にまつわるクイズを50問作成し、全校で挑戦することで、新市の魅力を伝えていく。



(4) 成果(□)と課題(■)

□ 令和7年度4月、新市中央中学校にて「ふるさと自慢」が行われ、保護者や運営委員が参観された。同日開催された第1回学校運営協議会では、児童生徒の表現力、カリキュラムの編成、授業づくり、ひいては学力の定着状況など、これまでにない実効性ある評価・改善の意見が交わされ、意見の質的な変化が見られた。

□ 提案の実現化に伴い、運営委員の学校運営参画の意識が高まり、外部評価委員会から学校運営協議会に発展していく機運が高まった。

■ 「ふるさと自慢」など、提案の実現化は、学校経営に対する評価・改善の一つの入り口で

あり、実現化が目的となることがないように注力する必要がある。

3 校長の役割

(1) 各校長や運営委員との連携

中学校区で学校運営協議会制度を導入しているからこそ、協議会の内容の見直し案、提案の実現化の進捗状況など、細やかな連携を行うことが必要となる。また、運営委員との連携を協議会当日のみとせず、目指す子供像、学校課題、協議会の内容や方向性などについて共有化・浸透化に取り組む必要がある。

(2) 教職員との共有

協議会での評価・改善に係る意見を、教職員と共有する必要がある。研修や面談の場を活用しながら、日々の対話の中で、評価・改善の共有化を図り、カリキュラムや日々の授業の充実につなげていく。

(3) 明確な学校経営ビジョン

各校長や運営委員との連携には、校長自身の明確な学校経営ビジョンが求められる。そのためには、学校課題を把握・分析すること、解決に向け、学校がすること、地域に任せることなど、具体的な取組を立案することが重要となる。

4 おわりに

令和7年度、新市中央中学校区では、児童生徒が、メディア等と触れる時間を自己管理する能力の育成を目指した「メディアコントロールDay」を週1回設けることとした。これは、学力の向上と生活習慣の確立を一体的に捉え、学校課題の解決を目指す学校運営協議会の新たな柱となると考える。「メディアコントロールDay」「ふるさと自慢」等、今後も、学校運営協議会が、児童生徒の実態に沿った評価・改善の場となるよう、校長として、教職員・地域との対話、子供を視るといったことを、日々のルーティンとして、取組を進めていきたい。